

1. 研究テーマ

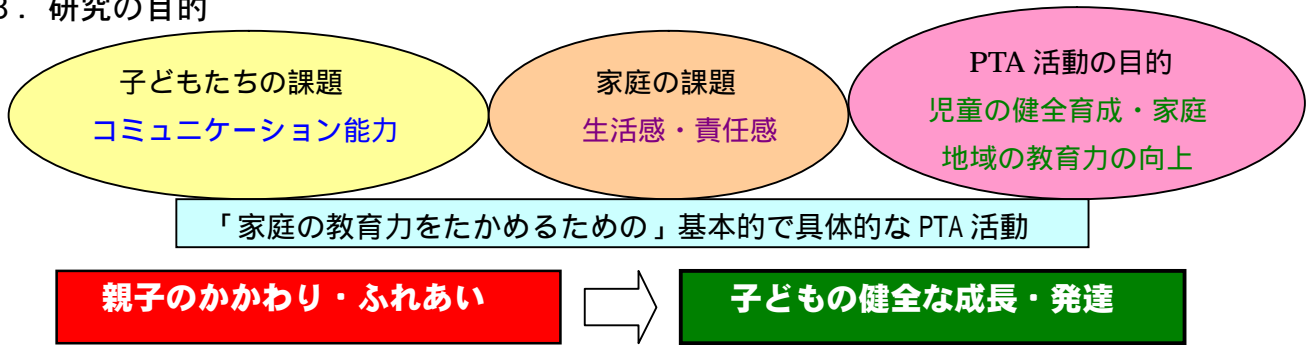
子どもの健全な成長・発達を支える家庭教育の在り方
～家庭の教育力をたかめるためのPTA活動について～

2. はじめに

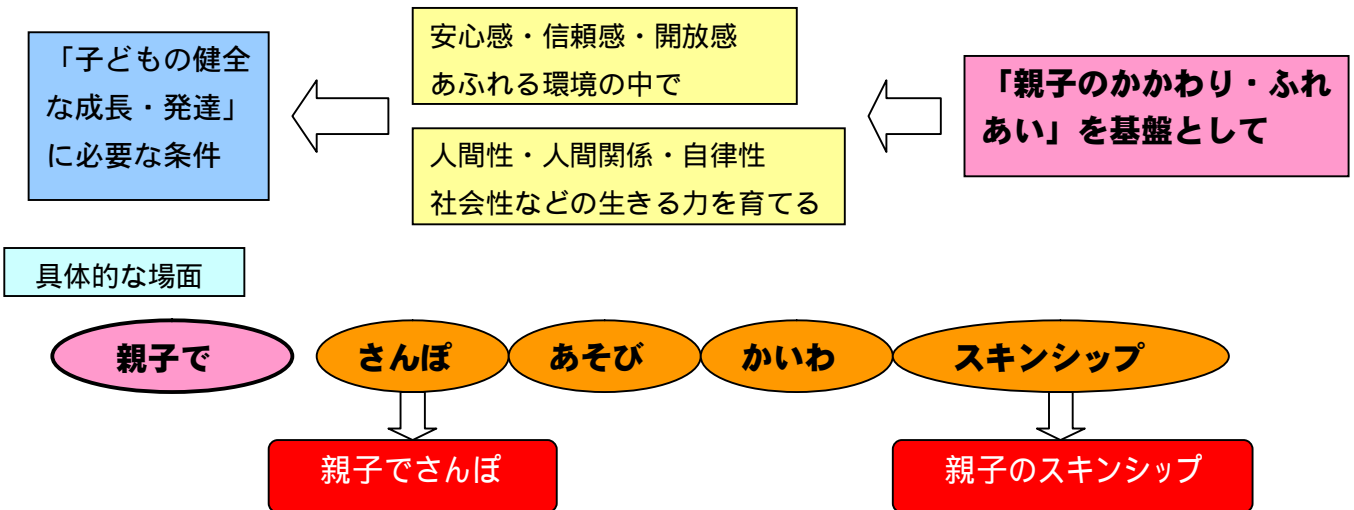
「時代の変化」は、「子どもの成長・発達」にとって、どのような影響を与えているのでしょうか。そもそも、時代は「子どもの成長・発達」を考慮して変化するものではない。そして、「家庭や地域の教育力」に問題が生じ、子どもたちの課題も深刻化してきていることも確かである。

本来の「家庭・地域の底力」が弱められている。「子どもの成長・発達」にとって弊害のあるものも子どもたちを取り巻いていることを考えると、「時代の変化」に左右されない家庭教育の在り方を、これまでの経験に学び生かすかたちで、基本となるものを伝えていかなければならない。

3. 研究の目的

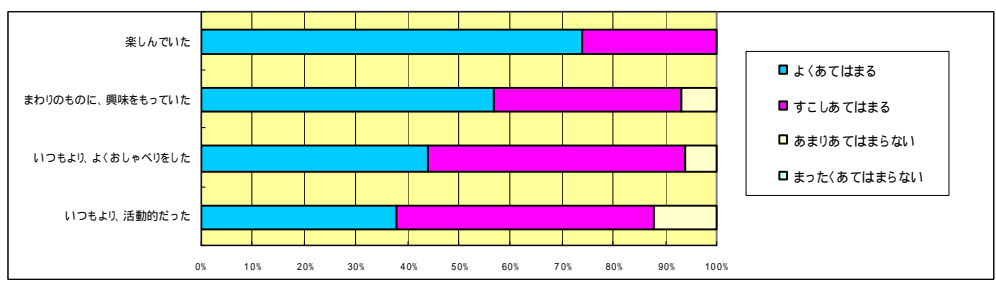


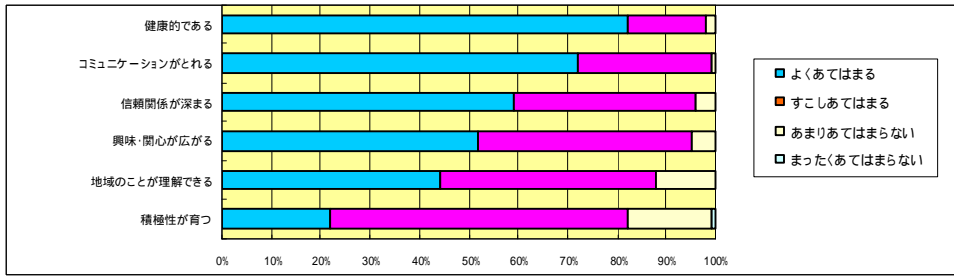
4. 研究の内容



(1) 「親子でさんぽ」：低学年の家庭に「親子でさんぽ」を実践してもらい、アンケート調査（保護者100人）でその時の子どもの様子や感想などを把握し、効果のあった点を啓発資料「さんぽだより」として各家庭に配布した。

子どもたちの声
「さんぽは楽しい」83%
「これからもしたい」87%



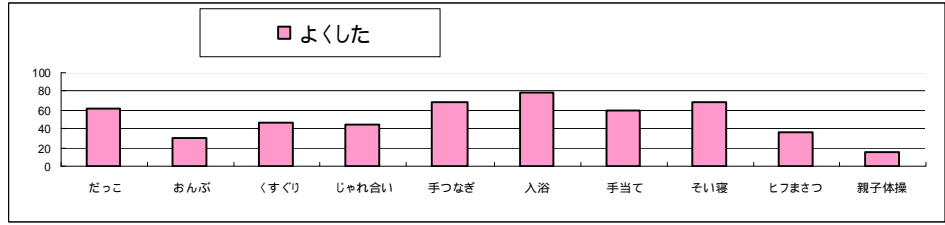


親の声「家の中では、つい
つい怒り声になってしまう
けど、外で一緒に歩いている
と気持ちがゆったりして、怒
ることもないです。」

・実際に「親子でさんぽ」している場面取材し、事例として紹介した。

(2)「親子のスキンシップ」: 低学年の家庭に、「親子のスキンシップ」についての実態調査としてアンケートを実施した。

現在でも「よくしている」は
「入浴」「手つなぎ」「そい寝」
「だっこ」「手当て」の順



「これから(次の段階)のスキンシップ」として、
受動的から自発的・行動的な要素のある「親子ですもう」
の様子取材し、事例として紹介した。

「スキンシップ」の効果
子どもの笑顔・安心感・落ち着き
素直さ・親子の信頼関係の深まり

5. 研究のまとめ

- 「親子でさんぽ」によって**
- ①いろいろな感覚を刺激する。
 - ②親子のふれあい、信頼関係が深まる。
 - ③費用も準備も要らず、いつでも誰でもできる。
 - ④自然とのふれあい、地域とのつながり、人との出会いがある。
 - ⑤ふるさとの思い出、子どもの頃の思い出ができる。
 - ⑥子どものペース・目線で、新しい発見がある。
 - ⑦時刻やコースが変われば、ちがった風景に出会える。
 - ⑧方法は自由で、「我が家のさんぽコース」ができる。
 - ⑨親の思い出、地域の伝統を伝えることができる。
 - ⑩のんびり、ゆったりと、親のストレス解消になる。

- 「親子ですもう」によって**
- ①天候に左右されない。
 - ②父親の出番ができる。
 - ③体力・全身を使う。
 - ④全力を発揮する。
 - ⑤「痛み」を実感できる。
 - ⑥「ルール」ができる。
 - ⑦力の加減ができる。
 - ⑧子どもの体力を感じることができる。
 - ⑨運動能力・チャレンジ精神が育つ。
 - ⑩へこたれない心が育つ。

「意欲的で思いやりのある子ども」の育成

家庭での「子どもの健全な成長・発達を支える」ものは、「親子でさんぽ」「親子のスキンシップ」のように、日常的で、誰でも、いつでもできること。そのための準備もお金もかからないことであり、親自身にとってもストレス解消になることである。

6. 今後の課題

- ・地域で「さんぽ」に適した環境を残していくこと。
- ・「親子のかかわり・ふれあい」をテーマとして、保・幼・小・保護者が連携してすすめること。

7. おわりに

「家庭教育」への支援の基盤は「親子のかかわり・ふれあい」を大切にすることである。どこの家庭でも取り組める基本的な活動場面を、親子での「さんぽ」「あそび」「かいわ」「スキンシップ」にしぼり、「親子でさあかす」を「子どもの健全な成長・発達」へのキャッチフレーズとして広めていきたい。